

2021年5月27日

～第70回 静岡県版 景気ウォッチャー調査(2021年4月)～

現状・先行きとも改善の動き弱く 悪化判断が続く

静岡経済研究所(理事長 一杉逸朗)では、4月中旬に実施した「景気ウォッチャー調査」の結果をとりまとめましたので、ご案内します。

現状判断(概要)

- 県内景気の「現状判断指数(方向性)」は43.8と、過去最大の下落幅を記録した前回1月調査(24.0)から+19.8ポイントと大きく戻したものの、景気の“横ばい”を示す指数「50」を再び下回った。
- 家計消費関連において、感染症が収束せず、飲食、サービス関連を中心に引き続き悪化判断となった。事業所向けビジネス関連も、感染症の影響で案件の着手が先送りになるなど悪化判断が続いた。一方、雇用関連については、医療・介護を中心に求人が回復傾向にあることから、2期ぶりの改善判断となった。

先行き判断(概要)

- 2～3カ月先の景況感を示す「先行き判断指数(方向性)」は43.3と、9期連続で「50」を下回った。
- 家計消費関連では、新型コロナウイルスの収束時期が見えず、特に飲食、住宅関連の悪化傾向が強い。事業所向けビジネスや雇用関連でも、感染症の収束後を見込んだ動きが出始めているものの、引き続き悪化判断となった。

※本件のお問い合わせ先 担当(中澤 郁弥)

第70回 静岡県版 景気ウォッチャー調査 (2021年4月)

改善の動き弱く、悪化判断続く

2021年4月調査の現状判断指数は43.8と、過去最大の下落幅を記録した前回1月調査(24.0)から+19.8ポイントと大きく戻したものの、景気の“横ばい”を示す指数「50」には届かず2期連続で下回った(図表1、2)。また、2～3カ月先の景況感を示す先行き判断指数は43.3と、9期連続で「50」を下回った(図表1、4)。

現状判断については、回り始めた経済が急激に失速した前回調査時から景況感の悪化幅は大幅に縮小したものの、感染症が収束せず、飲食、サービス関連を中心に引き続き悪化判断となった。事業所向けビジネス関連も、感染症の影響で案件の着手が先送りになるなど悪化判断が続いた。一方、雇用関連については、医療・介護を中心に求人が回復傾向にあることから、2期ぶりに「50」を上回り改善判断となった。

先行きについては、家計消費関連では、新型コロナの収束時期が見えず悪化判断が続き、特に飲食、住宅関連の悪化傾向が強い。事業所向けビジネス関連や雇用関連でも、感染症の収束後を見込んだ動きが出始めているものの、引き続き悪化判断となった。

< 調査結果の要旨 >

(D.I.は次頁「調査の要領」参照)

現状判断 (D.I.=43.8) 雇用で改善みられるが、全体では悪化判断から脱せず

- ・家計消費関連 (D.I.=41.6) 悪化幅は縮小したが、飲食関連中心に厳しい状況続く
- ・事業所向けビジネス関連 (D.I.=43.2) 取引先の経営状況などに不安
- ・雇用関連 (D.I.=58.3) 新規求人数が回復傾向にあり、改善判断に転じる

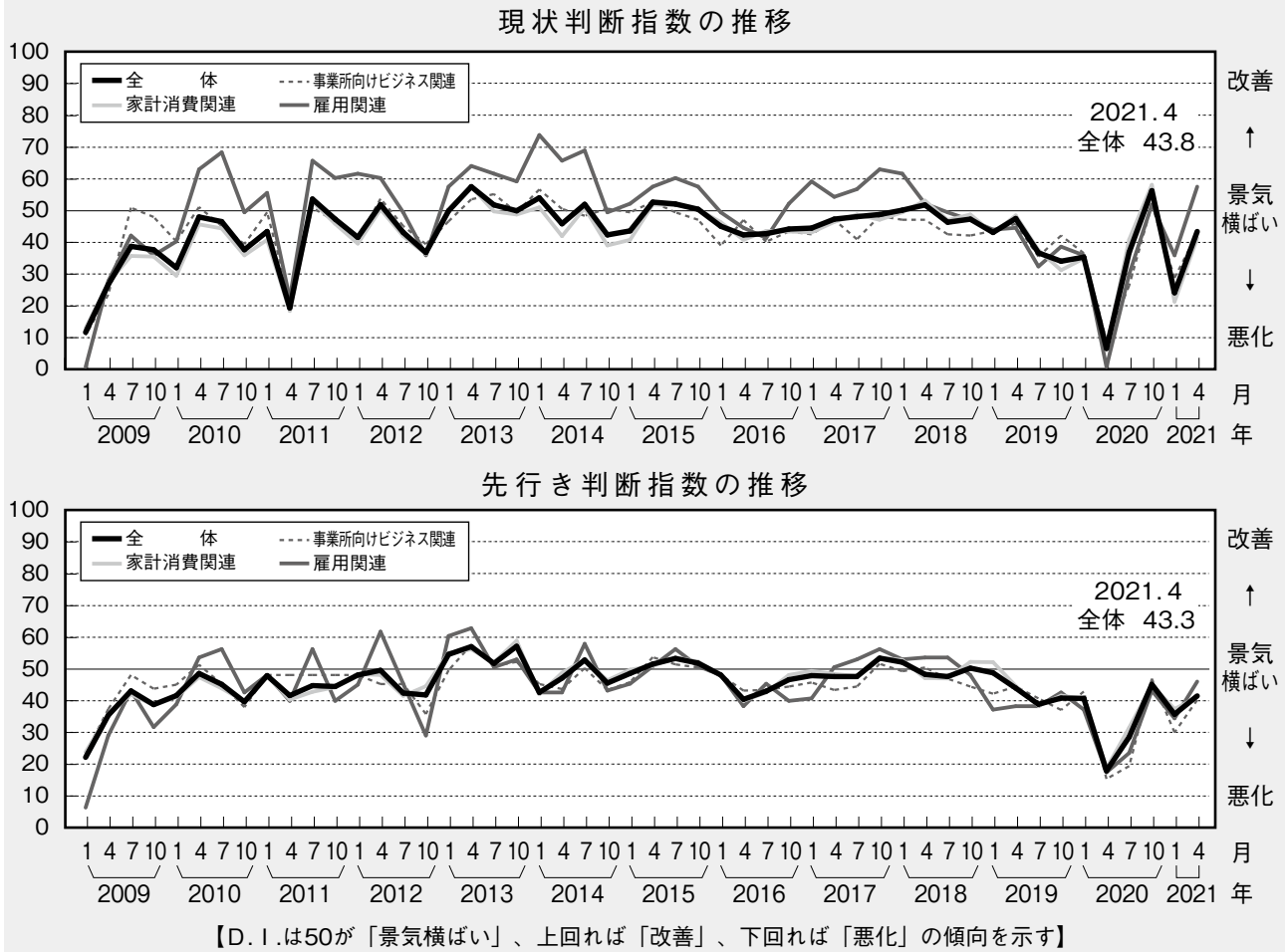
<現状判断の理由>

- ・家計消費関連・・・「来客数」の減少から、悪化判断
- ・事業所向けビジネス関連・・・「受注量や販売量」の減少から、悪化判断
- ・雇用関連・・・「求人の動き」が良くなっていることから、改善判断

先行き判断 (D.I.=43.3) ワクチン接種の進展に期待かかるが、景況感は一振れ

- ・家計消費関連 (D.I.=42.9) 改善見込みはごく一部、横ばいから悪化が大勢
- ・事業所向けビジネス関連 (D.I.=42.0) コロナ禍から事業環境改善の見込み薄い
- ・雇用関連 (D.I.=47.9) 求人の動きが出始めたが、業種によってバラつきあり

図表1 現状判断指数(D.I.)と先行き判断指数(D.I.)の推移



調査の要領

- (1) 調査目的：景気に関連した動きを観察できる立場にある人の協力を得て、景気動向を的確かつ迅速に把握し、景気動向判断を調査することを目的としている。
 - (2) 調査対象・方法：経済活動の動向を敏感に反映する事象を観察できる業種から選定した担当者にアンケート調査
 - ・家計消費関連 (n=74)
 - (内訳) 小売関連 (n=28) …… 百貨店、スーパー、乗用車販売など
 - 飲食関連 (n=10) …… 飲食店、外食チェーンなど
 - サービス関連 (n=26) …… 観光ホテル、旅行代理店など
 - 住宅関連 (n=10) …… 不動産販売、住宅販売など
 - ・事業所向けビジネス関連 (n=22) …… 印刷、広告代理店、運輸など
 - ・雇用関連 (n=12) …… 人材派遣、職業紹介など
 - (3) 調査事項：現在の景気の水準について/景気の現状に対する判断 (3カ月前との比較)/その判断理由と追加説明および具体的状況の説明など (自由回答)/景気の先行きに対する判断 (2～3カ月前の予想)
 - (4) 調査時点：2021年4月下旬
 - (5) 回答状況：調査対象122名のうち、有効回答を寄せていただいた方は108名で、有効回答率は88.5%である。
- * 景気判断指数とは、景気の実況や先行きに対する判断を点数化 (下表) し、それらに各判断の構成比 (%) を乗じて指数 (D.I.) 化したものである。これにより、判断指数 (方向性) においては、50を上回れば「改善」、下回れば「悪化」の傾向を示すこととなる。

評 価	現状判断	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
	先行き判断	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる
点数		+1	+0.75	+0.5	+0.25	0

現状判断 雇用で改善みられるが、全体では悪化判断から脱せず

家計消費関連（D.I.=41.6）悪化幅は縮小したが、飲食関連中心に厳しい状況続く

家計消費関連の現状判断指数は41.6と、前回から+20.5ポイントと大幅に上昇したものの、横ばいを示す「50」を下回り、引き続き悪化判断となった。内訳をみると、小売関連（42.0）では、「徐々にではあるが売上は回復傾向にある」（商店街）や、「土日の来客数は最近、確実に伸びている」（乗用車販売）など、売上高が戻りつつあるが、「コロナの感染拡大が長期化することにより買い控えが起きている」（一般小売店）との意見もあり、改善判断には至らなかった。飲食関連（37.5）とサービス関連（41.3）も前回調査から大きく上昇したが、「夜の来店客がまだまだ戻らない」（割烹）や、「宿泊、宴会、レストラン共に厳しい状況が続いている」（都市型ホテル）、「ゴールデンウィーク（GW）上映予定であった新作が、東京・大阪などへの緊急事態宣言の発出で延期となり、ほとんどが上映できなくなってしまった」（映画館）など、依然として厳しい状況がうかがえた。住宅関連（45.0）では、「インターネットでの問い合わせが増加している」（住宅・マンション販売）一方、「コロナが長引いているので購買意欲が減退している」（同）など、正負の意見が拮抗した。

事業所向けビジネス関連（D.I.=43.2）取引先の経営状況などに不安

事業所向けビジネス関連は43.2と、前回から+14.4ポイント上昇したものの、横ばいを示す「50」に届かなかった。「1～3月は休業しなかった会社が再度休業し始めて、助成金の申請を依頼されるケースが多くなっている」（社労士事務所）など、取引先の経営状況などに不安を感じるとの意見が聞かれた。

雇用関連（D.I.=58.3）新規求人数が回復傾向にあり、改善判断に転じる

雇用関連は58.3と、前回から+22.2ポイント上昇し、改善判断に転じた。「新規求人数は、令和2年12月以降は対前月比で4カ月連続で増加している」（職業紹介）や、「潜在的な求人が出始めてきた印象」（人材派遣）など、新規求人数が回復傾向にあり、2期ぶりに改善判断となった。

図表2 現状判断指数D.I.の推移

分野	調査時期	2019年			2020年			2021年	2021.4月		
		4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	1月	今回	前回比
全体		48.0	36.9	34.2	35.5	6.0	37.1	57.0	24.0	43.8	+19.8
家計消費関連		49.0	37.8	31.3	34.9	5.9	41.2	58.9	21.1	41.6	+20.5
	小売関連	44.0	37.1	26.8	33.0	9.4	44.2	55.0	26.7	42.0	+15.3
	飲食関連	46.9	36.1	30.6	30.6	0.0	37.5	59.4	12.5	37.5	+25.0
	サービス関連	55.0	39.0	35.0	38.5	0.0	38.0	63.6	7.6	41.3	+33.7
	住宅関連	50.0	38.9	35.0	35.0	15.0	42.5	60.0	42.5	45.0	+2.5
事業所向けビジネス関連		46.3	35.7	42.5	37.5	8.3	26.3	52.5	28.8	43.2	+14.4
雇用関連		45.0	32.5	38.9	36.1	0.0	30.0	52.5	36.1	58.3	+22.2

<現状判断の理由>

家計消費関連…「来客数」の減少から、悪化判断

家計消費関連は、“(やや)悪くなっている”の判断理由として、「来客数の動き」との回答がもっとも多く、「コロナウイルス再拡大のため、来客数が減少した」(飲食店)や、「3度目の緊急事態宣言などにより人の流れが抑制される中、宿泊人員の増加は見込めない」(観光ホテル)など、新型コロナウイルスの感染再拡大に伴う東京都などの緊急事態宣言発出の影響を挙げる声が多かった。

事業所向けビジネス関連…「受注量や販売量」の減少から、悪化判断

事業所向けビジネス関連では、“(やや)悪くなっている”の判断理由として、「ソフト開発案件で着手の遅延が見られる」(ソフト開発)や、「新型コロナウイルスの影響は、回復の兆しが見えたが再度悪化してきた」(イベント・展示場)など、「受注量や販売量の動き」を挙げる声が多かった。

雇用関連…「求人の動き」が良くなっていることから、改善判断

雇用関連では、“(やや)良くなっている”の判断理由として、「求人の動き」を挙げる声が多かった。「求人については3カ月前に比べ増加している」(職業紹介)や、「前月に比べると求人の動きが活発だった」(人材派遣)など、企業の求人が増加したことで雇用環境が改善している様子がうかがえる。

図表3 景気の現状判断理由

<家計消費関連(n=69)>

景気の判断理由	来客数の動き	販売量の動き	客単価の動き	お客様の様子	競争相手の様子	左記以外
(やや)良くなっている(n=14)	7	5	0	2	0	0
変わらない(n=30)	12	7	3	6	1	1
(やや)悪くなっている(n=25)	16	5	1	1	2	0

<事業所向けビジネス関連(n=21)>

景気の判断理由	受注量や販売量の動き	受注価格や販売価格の動き	取引先の様子	競争相手の様子	左記以外
(やや)良くなっている(n=5)	3	0	2	0	0
変わらない(n=8)	4	0	4	0	0
(やや)悪くなっている(n=8)	5	0	2	1	0

<雇用関連(n=11)>

景気の判断理由	求人の動き	求職者の動き	就職者の動き	窓口の繁忙度合い	他の人材関連会社等の様子	左記以外
(やや)良くなっている(n=5)	4	0	0	1	0	0
変わらない(n=3)	2	0	1	0	0	0
(やや)悪くなっている(n=3)	2	0	1	0	0	0

※nは、回答先数

※判断理由の無回答・複数回答先を除く

先行き判断 ワクチン接種の進展に期待かかるが、景況感は下振れ

家計消費関連 (D.I.=42.9) 改善見込みはごく一部、横ばいから悪化が大勢

家計消費関連の先行き判断は42.9と、前回調査(39.1)から+3.8ポイント上昇したものの、横ばいを示す「50」を9期連続で下回り、悪化判断となった。内訳をみると、小売関連(47.3)では、「ワクチン接種が終わるまでは大きな変化は期待できない」(一般小売店)や、「コロナ収束の時期が見えず、外出規制などにより購買意欲が盛り上がらない」(靴販売)など、引き続き新型コロナによる悪影響を懸念する様子がみられた。飲食関連(37.5)は、「GWというかき入れ時に3度目の緊急事態宣言。良くなるわけもなく、ワクチンも間に合っていないため何も変わらない」(飲食店)など、悲観的な声が挙がり、前回調査を下回る結果となった。サービス関連(41.3)は、「コロナが収束するまでは、またはワクチンが普及するまでは人の動き(とくに年配者)が変わらない」(観光ホテル)など、新型コロナが収束するまでは改善しないとの見方が多かった。住宅関連(40.0)では、「住宅木材の価格上昇、品不足により住宅の着工が遅れ、収益の圧迫になりそう」(住宅・マンション販売)と、アメリカの戸建住宅ブームによる木材不足の影響を懸念する声が挙がった。

事業所向けビジネス関連 (D.I.=42.0) コロナ禍から事業環境改善の見込み薄い

事業所向けビジネス関連は42.0と、前回調査(31.6)から+10.4ポイント上昇したものの、12期連続で悪化判断となった。「コロナが明けた後を見込んで動き始めている」(印刷)など、一部前向きな声も出たが、「感染の収束が見通せず、景気回復の兆しが見えない」(運送)といった意見が大勢を占めた。

雇用関連 (D.I.=47.9) 求人の動きが出始めたが、業種によってバラつきあり

雇用関連は47.9と、前回調査(36.1)から+11.8ポイント上昇したものの、横ばいを示す「50」を10期連続で下回った。「IT人材に対する旺盛な需要は感じられる反面、その他の業種はそれほどでもない」(人材派遣)など、業種によって求人の動きにバラつきがあるとの声が聞かれた。

図表4 先行き判断指数D.I.の推移

分野	調査時期	2019年			2020年			2021年	2021.4月		
		4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	1月	今回	前回比
全体		45.8	40.6	42.6	42.2	19.3	30.1	47.0	37.4	43.3	+ 5.9
家計消費関連		46.5	40.1	43.4	42.1	20.1	33.1	46.8	39.1	42.9	+ 3.8
	小売関連	46.6	41.1	40.2	44.6	15.6	35.0	48.3	37.5	47.3	+ 9.8
	飲食関連	46.9	44.4	44.4	36.1	17.9	31.3	50.0	40.6	37.5	△ 3.1
	サービス関連	45.0	40.0	47.0	40.4	19.4	34.8	43.2	39.1	41.3	+ 2.2
	住宅関連	50.0	33.3	42.5	45.0	37.5	25.0	47.5	42.5	40.0	△ 2.5
事業所向けビジネス関連		46.3	42.5	38.8	43.8	16.7	20.8	48.8	31.6	42.0	+10.4
雇用関連		40.0	40.0	44.4	38.9	18.8	25.0	45.0	36.1	47.9	+ 11.8

総括

現状・先行きとも悪化判断、景気はさらに下振れする懸念あり

今回の景気判断を総括すると、現状判断指数は43.8と、前回調査24.0から+19.8ポイントと大きく戻したが、景気の横ばいを示す指数「50」を下回り、悪化判断が続いた。「家計消費関連」では、悪化幅は縮小したが、引き続き飲食関連を中心に厳しい状況が続き、改善判断には至らなかった。「事業所向けビジネス関連」でも、持ち直し傾向はみられるものの上昇幅は限定的で、悪化判断から抜け出せていない。「雇用関連」では、求人数の増加などを背景に改善判断となった。

先行き判断指数は43.3と、前回調査（37.4）から+5.9ポイント上昇したものの、引き続き悪化判断となった。「家計消費関連」では、コロナ禍のマイナス影響が大きい飲食関連や木材不足の懸念が出てきた住宅関連で、一段と悪化する見通しが強い。「事業所向けビジネス関連」では、新規受注が弱く、景気回復の兆しはまだ見えないとの声が聞かれた。さらに「雇用関連」も、業種によって新規求人バラつきがみられ、景況感は再び悪化に向かう懸念がある。

以上、静岡県内のウォッチャーによる景気判断は悪化幅こそ縮小しているものの、緊急事態宣言の延長や新型コロナウイルスの変異株による感染拡大などにより、景気判断が改善するまでには至らず、さらに悪化する懸念が拭えない。今後は、一刻も早くワクチン接種が進み、感染者が減少して人やモノの動きが正常化することが期待される。

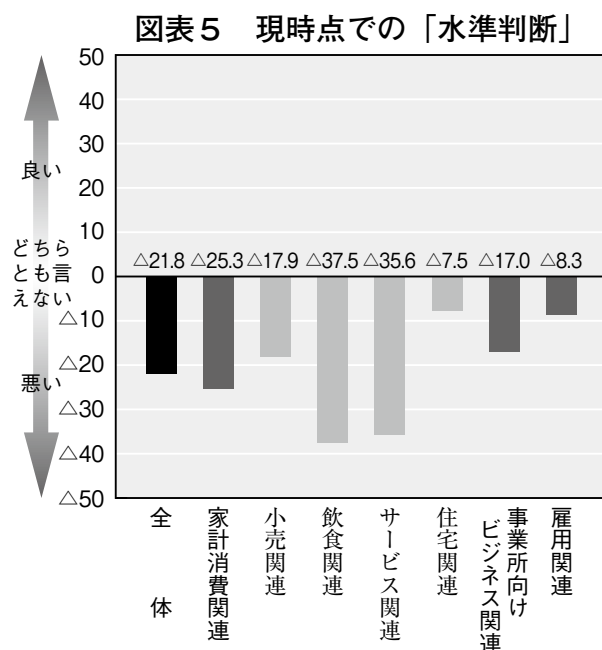
(中澤 郁弥)

<参考>

現時点の景気は、全分野で“悪い”との判断が続く

現時点での景気が“良いか悪い”を聞いた「水準判断」は△21.8と、基準値「0」を下回った（図表5）。

家計消費関連は△25.3で、とりわけ、飲食関連（△37.5）やサービス関連（△35.6）で、“悪い”との判断が目立つ。事業所向けビジネス関連も△17.0、雇用関連も△8.3と、すべての分野で“悪い”との判断となった。



※現在の景気に対する判断を点数化して各判断の構成比を乗じた上で、「どちらとも言えない」をゼロとして数値化したもので最大値は+50、最小値は△50。プラスであれば景気が「良い」、マイナスであれば景気が「悪い」ことを示す。